



躍進する留萌

道北の留萌としてあすを約束された



駅舎改築に伴うロードの改良で留萌駅の輸送能力

90年前の留萌も、いまや



留萌港の南岸は荷役作業も忙しく……



数々の立体交差は大自然に色とりをそえて

近代的な姿に生れ変わった南岸壁



留萌港を基地として道北各地に石油が運ばれる



対外貿易の一環としてソ連から北洋材、カリ肥料などが留萌港を利用して道北へ

北海道北西部の一寒村として開らけた留萌は、ことしで開基九十年、市制施行二十年を迎えた。北海道開拓史そのままに幾多の苦難をのりこえて、こゝに、その記念すべき年を迎えたのである。大正時代から昭和初期にかけての大留萌建設は、現在ある留萌の基礎を築いたが、近年の飛躍的な発展は未来の留萌を作る権音である。長期にわたる留萌港整備計画は、年次計画によって道北の留萌港として、着々とその役割りを築き、バラ色の街づくり、総合都市計画も出来、計画にそった事業も始まっている。そしてことは、留萌駅前広場とその周辺の都市計画と留萌駅舎の改築がはじ

まる。建設中の総合病院の完成もことしだ。留萌小学校、留萌高校の大改築工事(新築)も、ことし予定されている。そして、旭川―留萌間の国道の全面舗装と旭川留萌間の新産業道路の着工も予定され、未来に向けて大市な基盤整備がこゝしも続けられる。いまや、留萌管内の文化経済の中心都市にとまらず北海道北部の留萌々としてその重要な役割りが約束された。躍進する留萌、飛躍する姿こそ、ことし迎えた開基九十年の、市制二十年目の晴れ姿である。



あすの産業を守る若い力がここに

留萌管内の中心都市として……

